

「地域で子育てをサポートします」



中央区タウントークは九月十八日、山鼻ふれあい子育てサロンで開催。このサロンは、民生委員やボランティアなどによって運営される、地域のお母さんと子どものための交流の場です。

前半は、市長が遊びの輪に加わり、和やかな雰囲気の中、子育てについて話し合いました。後半は、地域の方を交えての意見交換。文化活動・交通政策・景観問題などについて市長が答えました。

◆市民から子育て中の親子が交流できる機会を増やしてほしい。

◆市長より学校の空き教室などを活用して、小学校の学区単位でそうした場を設けたいと考えています。そこでは、子育てを終えた方にもアドバイスをしてもらうなど活躍していただければと思います。



◆市民から高齢者や子どもにも優しい路面電車はぜひ存続させて！

◆市長より路面電車は人に優しく、景観面でも札幌市のシンボルの存在なので、ぜひ存続させたいと考えています。そのためには議論を重ね、交通実験を行うなどの検討が必要。本年度中に存廃についての意見をまとめたいと考えています。

◆市民から高層マンションの建設が相次いでいるが、藻岩山の景観は守ってほしい。



◆市長より藻岩山の眺めは札幌市民の心の風景であり、高層の建物に隠されてしまうのは確かに残念なことです。ただ、現在の景観条例には強制力はなく、土地を所有する業者のモラルと配慮に委ねられています。都心では、限られた土地を立体的に活用することも必要。市に強制的な権限はありませんが、誠実な話し合いができるよう仲介する役割を果たしたいと考えています。

「自分たちのまちは、自分たちで守りたい」

十月八日に行われた白石区タウントーク。市長はJR白石駅に到着し、駅の北側を視察。その後、徒歩で白石まちづくりハウスへ到着しました。

白石まちづくりハウスは、JR白石駅周辺地区街づくり協議会を中心に、商店街や作業所、ボランティアなどの協力により運営されています。当日は、協議会会員やまちづくりハウスのスタッフから多くの意見が出され、有意義な一日となりました。



◆白石俊信さん(白石駅通商工振興会会長) 新しい白石駅のあり方を地元住民で議論しています。完成してからも清掃や除雪など、できることは自分たちでやらせてほしい。

◆市長よりそうした考え方も、まちづくりの原点です。白石にはふるさとを大切にしている人が多いですね。これからは、自分たちで街を守るという姿勢で、駅を含め、街全体を良くしていくってほしいと思います。

◆大竹利弘さん(北白石地区連合町内会相談役) 地域の連絡所をもっと有効活用する方法を考えてください。

◆市長よりインターネットを利用して市内の連絡所長による意見交換の場を設けました。これには私も参加しており、地域づくりにおけるコーディネーター的な役割を担うにはどうしたらよいか考えていきたいと思っています。



◆常盤野晴子さん(共同作業所ヨベル代表) 行政の人は、もっと市民の声を聞いてほしい。

◆市長より役所の人はとてもまじめで熱心な人ばかりですが、しかし、それを表現する努力がまだまだ足りません。しっかりと仕事さえしていればいいというのではなく、市民の話をよく聞いて共に問題を整理し、解決していく必要があります。

◆佐久間公久さん(本通親和会) 夜間保育所をJR白石駅の周辺に。

◆市長より保育所の問題については、未認可の保育所を認可していくなど、いろいろなことを考える必要があります。定員オーバーと定員割れの保育所のバランスを考慮するなど、慎重に検討していかなくてはなりません。



◆佐藤大志さん(共同作業所ヨベル) 作業所の事業の一つとして、まちづくりハウスの喫茶コーナーを担当しています。地域とかかわりながら働くことは大変励みになるので、こういう場がほかの区にももっと必要だと思います。

◆市長より障がいのある方が、地域の人とかかわりながら頑張れる場所があるというのはとても必要なことです。地域にいいことで元気になる、このような場所は確保していかなければなりません。そのために、みんなを考えていきたいと思います。